

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2016 助成の概要と推薦理由

助成番号 16-2-1

プロジェクト名 ホスピタル・プレイによる在宅支援システムの構築(2)
団体名 特定非営利活動法人ホスピタル・プレイ協会
代表者名 松平 千佳
所在地 静岡県
助成額 200万円
助成期間 2017年5月1日～2018年4月30日
設立年 2010年
URL <http://hps-japan.net/>



医療的ケアを必要とする子どもは、医療の発達により命が救われても、遊びや学び、人との出会いなど、本来であればすべての子どもが享受できるものが得られないことも多く、QOLが保たれているとは言い難い。また親は常にケアをしているため、「子ども」としての我が子ではなく、「患児」としての我が子として接してしまい、加えて自責の念や日々のケアの負担感で非常にストレスを抱えている。今後は医療や福祉の側面だけではなく、親と子どもの関係構築に向けた支援がより必要になってくるだろう。

この団体は、病児や障がい児に対して、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（以下、HPS）が行う遊びを使った専門的な支援を通して、子ども達が医療と肯定的な関わりを持てるように努め、また多様な問題を抱える子ども達すべてに遊びと遊び支援が届くよう、活動に取り組んでいる。

前回の助成では、在宅支援の事例（静岡県、愛知県、大阪府など）を重ねる中で、訪問看護師や理学療法士、作業療法士などとの多職種間の連携が生まれ、HPSによる専門的遊び支援を内包した在宅支援システム構築に向けての基礎を形成した。またイギリスにおける在宅支援の先進事例を渡航調査し、日本の風土・文化にあった支援方法の検証に役立てるとともに、ノッティンガム子ども病院のHPSを招聘し、静岡県立こども病院でシンポジウムを開催した。

今回の助成では、引き続き在宅支援を通して、異年齢や様々な病状の子ども事例を積み重ね、支援内容を系統的に整理し、医療的ケアの必要な子どもたちの可能性を在宅医療関係者に示していく。さらにイギリスから招聘するコミュニティ・プレイ・スペシャリストによるシンポジウムを市民向けに静岡市内で開催する。合わせて重症心身障がい児の親の会等との連携を図り、地域からHPSの必要性を発信できるよう啓発活動を進める。

本助成を通じて、実際にHPSの支援を受けている子どもや親、そして在宅医療関係者から賛同者を集め、さらに地域の多様なステークホルダーを巻き込みながら連携を促進し、制度化を目指した訴求力を高めることを期待したい。